

一年保育と二年保育の問題

(八)

山 村 き よ

はじめに

三月からのせられたこの問題の御説を興味深く拝見してきたけれど、紙面の不足か、何かしら物足りない感じでおかきになった方々ともっともっと、お話し合いしてみたい気持ちで一ぱいである。いよいよ私の番になって、編集部からは具体的な指導方法という御依頼だったけれど、私は日頃考えていることをこの機会にこそと思っていたので、私共實際家の責任に於て解決したい問題の根本的なことを少しのべさせていたで、もし紙面があつたら具体的なことにふれたいと思う。

過去に於て私は一年保育児を十二年間もつづけて担任した経験をもち四十名の園児ととりくんだ、愉快な思い出を沢山もっている。

三組に編成の小人数の幼稚園で環境にも恵まれ、しかも自由保育説の流れ始めた頃で各組がお互いに遠慮することなく自分の計画を流して一日を楽しく誘導したので、ある程度家庭で身につけてきた「生活力」をもっている一年保育児に対して「おくせることなく」入りまじって遊ぶので、その姿を見て、当時若かった私は理論の上からは「小さい時から

幼児教育の必要性」を充分認めていながらも實際生活の上では一年保育児の方がかえって取扱いやすい上に、ある程度まとまりある生活が早くできるように想えずいぶん考えさせられた時代があった。

その後、別の幼稚園では五、六年間をつづけて二年保育年長児の責任者で通した。主任という立場からいつも一人一人のこどもの姿に気をとめて教育の評価に心がけて一生懸命になった時代も又思い出される。幸いといつも職場と健康にめぐまれるので日々の生活が楽しくあれこれと、研究にとりくみながら、一年保育と二年保育の問題も真剣に考えたりした。その頃はあちこちで研究会ももたれ、ある研究会では先般御他界なさつた坂間ミツ先生が細かい調査資料をもつて発表されたことを中心に話がはずみ、故倉橋惣三先生の胸のすくような気持ちよい御指導をいただいたことも楽しい思い出で、その頃問題になった内容と同じことが、又二十年以上もたった昨今、あちこちで問題になっている事を考え面白現象だと思ふ。

それからつづいて戦時体制に入り国民学校令のもとに、幼稚園でも国の精神を幼稚園の

目標にかかげてお社こそ設けなかったが靖国神社を背景にして「がまんつよい意志力」の涵養につとめたので団体行動を気もちよくとらせるためには教師の命令に早く順応してくるというので、ここでも一年保育児が第三者の目には非常に立派に見えて、私は自分のクラスのことでも達が個人的には何かしら「力つよい」ものをもっているながら社会性の面では統制をみだす者が目立って、しかもそうしたクラスの「ふんいき」が全体の幼稚園の統制をみだす場合が多いので主任の立場にある自分を考えては「歯をくいしばって」自分のクラスのことも達を「見つめた」こともはつきりと想い出に残っていることであるが、又反面には三学期になるとそうしたばらばらな個人差も、目たたなくなる程「順応性」もでき、ことに劇あそびをしたり、リズム楽器をもたせたり、展覧会でもする場合には私の想わぬところに「すばらしいできばえ」を見せて一年保育の担任から羨しがられたことを想い出す。こんなとき、いつも思ったことは「このことも達を二年間通して計画性のある教育がしてみたい」ということであった。

戦後国の教育精神が変り、児童観も一変し

て「こども中心の」自由教育が盛んになったとき私共幼稚園関係者はほんとに喜び合ったものだった。今こそ個人的な社会性の問題と大いにとりこんで二年間を計画的に教育したならば幼稚園と小学校教育の連絡もスムーズに運ぶものと考え、過去の経験を生かして三年間は、がんばって見たが、あいにくとその頃の小学校の教育内容とはかくとして私の幼稚園が関係していた小学校の先生方の中には、ことに低学年の先生方には戦前と少しも変らないような「指導方法」をとられていたためにここでは小学校の先生方にも一年保育説がとりあげられた。しかし私は当時文部省から示された保育要領(試案)に楽しい経験を通して生活指導に重点をおかれ「成長発達に即して」という指示通りまじめにこども達一人一人に楽しい生活をさせるために苦心し、どうしても二年保育を立てまえに考えることがこども達を「より幸福にする」ことと信じて一生懸命若い先生方と勉強したことを想い出す。その時から、今もって正しい解決点を見出さずに「持ちこしている問題は」幼児達が始めて入園してきたとき(特に二年保育年少児を)

○気持よく個人生活から集団生活に導入して社会性を育てる最初の指導をするには教師の「考え方」をどのようにもつたらよいか、

ということ、いろいろの学者の先生方と経験ある實際家の先生方の中にも次のような二つの考え方が流れていたと思う。

1. 未分化な幼少時代であるから家庭的に情緒的にゆるやかな個々の生活から導入して次第に集団生活に誘導する。

2. 幼少の時期をはずしては生活指導を「正しく」することはできないので最初はある程度型にはめるようでも「幼稚園児としての躰」を身につけてから楽しい集団生活の中で個人的な生活指導をする。

こうした根本的な問題が解決されないで表面的「保育形態」ばかりががちこちで問題にされているとき、時あたかも幼稚園ブーム時代がおとずれて、私立幼稚園は雨後のたけこのように乱立し、したがって先生の質の低下は止む得ず、高校卒の未経験者がどんと幼児の遊び相手に選ばれてしかも一人の受持つ人数が五〇名近く又は六〇名位の幼児を二人も三人の先生方に導かれて、計画的な目

標も持たず、評価もないような幼稚園の状態
においこまれてもまだ入園希望者は收容しき
れず、教育の機会均等から文部省では「就学
前一年だけの幼児を收容して余ゆうがあった
場合に二年保育を」との御指示をうけたので
公立幼稚園では二年保育が始ったり、一園に
四〇〇名、五〇〇名の一年保育児を收容する
大きな幼稚園も誕生して私がかつて夢見てい
たような幼稚園とはおよそ変つた型の幼稚園
があちこちに誕生した。

こんなときに「幼稚園教育の効果」があら
ゆる方面で問題にされて一年保育児と数少い
二年保育児が対照とされたり商品のように扱
われてA児とB児の評価がはっきり紙の上に
かかれてみたり、ある特種な幼稚園から、特
種な小学校に進んだ小人数のこどもを対照に
して「幼稚園教育をうけた者は落ちつきがな
いとか団体の統制をみだして困る」等々あち
こちに波紋をおこした。幼稚園教育の結果が
小、中学校の教育と同じようにははっきりと
表わせない部分の多いことをどうして説明し
たものかと非常に苦心したときもあつた。一
年保育児と二年保育児を比較する場合にも、
「身長や体重」、「生活態度や能力」など表面

に表われたことのみでは絶対に表わし得ない
と思う。一年間家庭で「結果を多く求めて生
活させた生活力」と、幼稚園で「過程を重ん
じて創造的に積極性をもたして生活させた生
活力」の「相違」がどんな場合に表われてく
るか、又役立つっているものか？ こどもの姿
をながめているとほんとによくつかむことが
できる。

現在私は園長の立場でこうした問題ととり
くみながら二年保育の効果がどんな場合にど
のように表わし得るものかと「こどもの姿を
追いかけて」いる。一年保育児と二年保育児
の姿には、はっきりとこの「家庭からもたさ
れてきた生活力」と過古一年間に幼稚園でゆ
っくりと身につけた「生活力」の「相違」を
見出して、その指導上の注意をうながしなが
ら九人の教員がかわるがわる一年保育と、二
年を継続した二年保育ができるように編成
し、一年保育児は一学期で早く二年保育児が
過去一年間に味わつたような「楽しさと生活
力」を身につけるよう努力させ、二学期から
は全部が年長児としてのカリキュラムで進め
られるように教員同志の研究を援助している
つもりである。

二年保育児が年長組になつての四月五月は
非常に苦心して指導すべきときで、この頃の
こどもは成長発達の一段階にあるのか、又は
指導の「まずさ」からくる影響か、先生や母
親の期待を裏ぎつて妙にはづかしがつてみた
り、中味のない「からいばり」のこどもが目
立ち、時には先生の計画がはずれると思わぬ
ところにそれについてしまふことがある。こ
んなとき入園したての一年保育児は当初から
大体足なみが揃つて自然とクラス全体がまと
まりあるように第三者の目につるので、こ
とに保護者の啓蒙にあつては園長として充
分「幼稚園教育の使命」がどこにあるかを認
識させ、二年保育児のもつている「生活力」
が「どうして育ち、どのように今後の生活に
役立つ」かをわからせて一年保育児が早くこ
の「生活力」をもつように「家庭生活の正しい
あり方も」指導しなければならぬと思う。

おわりに

とうとう紙面がなくなつてまとめる事がで
きず誠に申訳なく残念に思うので、いずれ
機会を見て具体的な問題をのべさせていた
だき度いと思ふ。